

ねらい 売上原価の算定方法を学習する。

本科講座 22 では売上原価の計算方法について学習しました。簿記ではすべての取引を仕訳を使用して記録しますので、売上原価の算定も仕訳し、決算整理仕訳を行わなければなりません。売上原価算定での決算整理仕訳では、今期に売れ残った商品は、翌期に持ち越しますが、その商品を繰越商品勘定という勘定科目を使用して仕訳します。

売上原価算定の決算整理仕訳は、期首商品の仕訳と期末商品の仕訳と2つの仕訳が発生すると考え、期首にある分は、期首に仕入れた商品と考え、期末の商品は、翌期の分と考えると解りやすいのではないのでしょうか。（実際には決算時に行う）

次の例で考えてみましょう。

例1 期首に商品が500円あり当期に商品を1,000円仕入れた。
 期末残高を確認すると商品が200円残っていた。
 この場合の決算整理仕訳を行いなさい。
 借方 仕入 500 貸方 繰越商品 500 (前期の繰越分と考える)
 借方 繰越商品 200 貸方 仕入 200 (次期への繰越分と考える)

精算表の記入方法（売上原価算定）

精算表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	500		200	500			200	
仕入		1000			1300			

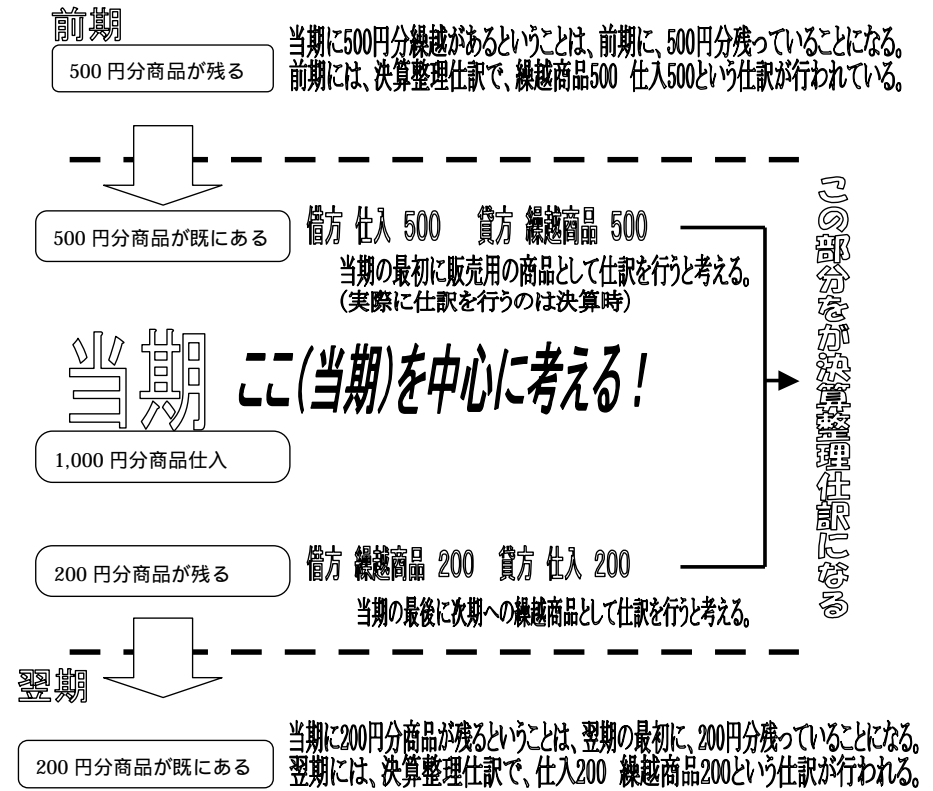
まず、残高試算表欄に、期中の取引の残高を記載します。ここでは、前期からの繰越が500、当期の仕入が1,000ですので、残高試算表欄にはそれぞれ500と1,000が入ります。次に例1の決算整理事項の仕訳を修正記入欄へ記入します。この仕訳をT勘定フォームで表すと下記ようになります。

仕入		繰越商品	
繰越商品 500	繰越商品 200	仕入 200	仕入 500

こうすることにより、損益計算書欄に売上原価1300円が記入されます。

売上原価算定仕訳

決算整理仕訳の考え方(売上原価算定)



売上原価の算定方法は、決算整理事項でも、難しい内容の一つです。ここでは、何故そうなるのかを理解するより、機械的に「仕入・繰越商品」「繰越商品・仕入」と2つセットで覚え、精算表を作成して結果的に計算と合ってくると思ったほうがいいかもしれません。